



第144号

発行所 上高井教育会  
 発行人 上高井教育会長  
 宮川 博  
 編集人 会報編集委員長  
 滝澤 祥 匡  
 印刷所 須坂新聞社

# 学力問題の悩み・問題点を語り合う

## 平成三年度教育懇談会開催される

六月二十七日、須坂小学校において、会員五十余名の参集のもとに、第十五回の教育懇談会が開催された。全体会で、宮川会長はご自分で経験した教材化のことにふれられ、「ある素材を教材化するために、現地まで行って教材研究し、授業をしくんだ。子供は迫力をもって授業に取り組んだ。しかし、次の年に修正し、補足資料も十分に授業に臨んだはずなのに、子供は動かなかった。教師が教材に対する新鮮な感動をなくした時、子供はそれをすばやく見抜き、受け身の姿勢になってしまおうということをも身をもって経験した。」というお話をされた。続いて三つの分散会に分かれ、懇談会が進められた。

本年度は、各分散会とも、「子どもに学力をつけさせるためにはどうしたらよいか。」というテーマのもと、二名ずつのレポーターの発表を中心に、真摯な先生方の話し合いがなされた。また、助言者の先生方からは、現状を的確にとらえ、明日からの指針となる助言をいただくことができた。終わりの全体会では、各分散会での懇談内容が報告され、それぞれに実り多い話し合いであった。

# 教育上の諸問題(学力問題)

早川 智香子

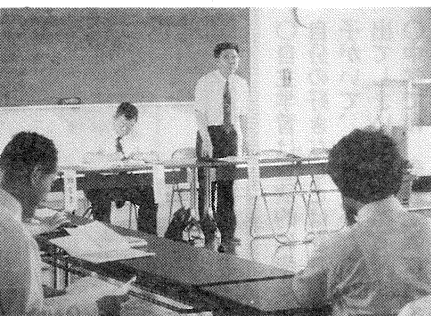
テストがよくできる。与えられた問題に正しく答えられる。一確かに大切なことであるが、それだけが本当の学力だろうか。学力は、読み・書き・計算などに代表される基礎学力と、それらを総合して自分の生活に生かしていく力

としての学力という二つの側面から考えなくてはならないと思う。

現在の長野県の教育が、これらのどちらかに偏ってしまっているのか、どちらも不十分なのか―それは、私にはまだよくわからない。しかし、

基礎学力をつけさせるために、私達教師がまず心がけるべきことは、授業時間を大切に、地道にくり返し学ばせる態度を忘れないことだと思ふ。そして、どんな場面でもどんな力をつけるか、その力をつけることのための技術を研究することが必要だ。

更に、学校教育を生徒学習の入口という視点でとらえること、ただ教育内容を教えこむ



「学び方」そのものを教えることも大切である。児童が自ら問題意識を持ち、自分達の手で追究していく―その方法自体を学ばせることも、学校教育の大切な一面であると思う。児童が自らの力で学べるような学習課程を研究し、仕組んでいく必要がある。

次に知識欲の問題です。生徒たちは本来、「自分を高めたい。多くのことを学びたい。」という願いを持っており、新しい知識に触れ、それが自分のものとなる時、大きな感動を覚えるはずですが、その感動を呼び起こす、興味・関心を引き出す教材の準備、提示の方法、場面づくりが求められます。

最後に、粘り強く努力する力です。その基礎となる精神的な安定状態にもっていつてやる必要があります。家庭、健康、学級集団に気を配り、改善の方向にむかわせることが大切です。また、粘りを育てる清掃、係活動、家庭学習も目的的に指導する必要がありますでしょう。

学ぶ力を持つ生徒とは、真剣に聴ける、ノート取れる、知識がしみ入る素直な心を持つ生徒と考え、そんな生徒指導を心がけたいと思います。

# 学力問題を考える

北沢 晃

子供たちの姿から学力問題を考えると、次のような点が問題となる。

①情報過多の環境の中にあつて、受動的、羅列的に理解することが多いことから、物事を筋道たてて考えていく論理的思考力が育ちににくい。

②体を通して、ものと関わる経験の不足から、生活感情が活性化されず、表現力が育ちににくい。

③学習を通して自分を高めていくことに目標(将来的理想)が持ちにくく、ねばり強い取り組みができない。

このように捉えた時、「いかに子供たちの生活体験を充実させ、つながりと広がりのある学習活動を組織していくか。」が課題となる。しかし、体験を重視するあまり、非常に効率の悪い展開に陥っては

いけないか、次の点から反省してみたい。

どのような体験を通して何が学べ、何が学べないか明確にせず、曖昧なねらいで時間を費やしてはいかないか。

学習の発展の中で、体験したことの意味づけが、子供なりに理解されているか。

体験したことが学力として定着する過程において充分な手立てが用意されているか。

子供たちが喜んで活動する中で、どう学力として定着させるかが、私の課題である。

# 学ぶ力をもつ生徒に

山崎 悦夫

(小山小)

(豊洲小)

# 懇談抄

## 第一分散会

司会 石井 光男 (森上小)  
 発表 早川智香子 (小山小)  
 山岸 信之 (旭ヶ丘小)

助言者

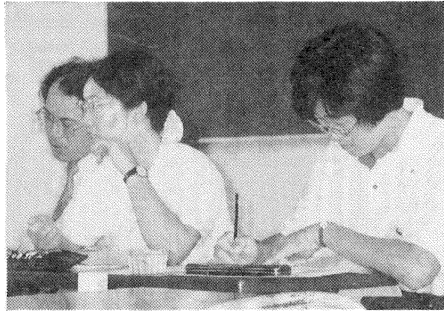
小林 謙三理事 (高山小)  
 出席者  
 井出 玲子 (高山小)  
 横山恵理子 (須坂小)  
 中野美也子 (日滝小)  
 西郷波満子 (豊洲小)  
 原 隆文 (日野小)  
 井口 博司 (井上小)  
 柳川 淳子 (仁礼小)  
 久保村千鶴 (豊丘小)  
 宇治 香苗 (小布施中)  
 山辺 和夫 (高山中)  
 林 佳恵 (常盤中)  
 佐藤 真 (相森中)  
 海沼 正典 (墨坂中)  
 伊藤 文香 (東中)

出席者からの発言  
 ○基礎学力の定着を図るための一つの手段として、個人差を生かす授業をしている。  
 ○子どもが自分の生活を切りひらく力としての学力をつけるために、討論のできる授業を仕組んでいる。  
 ○学んだことをその子なりに実生活で駆使してほしい。  
 ○その子に合った指導法や見取りの上になつて、深めるねらいを確かなものにする。  
 ○学習への関心や意欲も学力のうちに入る。

○教師がのめり込んで取り組んだ教材には、子どもものつてくる。  
 ○子どもに聞く姿勢をつけることが大切である。

助言者の先生から

○なぜ今、学力がこんなに問題になつているのか、一人ひとりがつかんでほしい。  
 ○子どもに学力をつけるためには、①教師の教材研究②主眼をもった授業③そこに到達



○最近の子どもは、困難に出会うと逃げてしまう。やる気がない。家庭教育にも問題がある。  
 ○現場の小さな問題をとり上げて研究授業をしたらよいのではないか。

(栗ガ丘小 山下文代)

## 第二分散会

司会 倉島 芳朗 (東中)  
 発表 北沢 晃 (豊洲小)  
 柳沢 友孝 (小布施中)

助言者

宮本 博雅理事 (小布施中)  
 出席者  
 糸魚川朋之 (栗ガ丘小)  
 今清水康恵 (高山小)  
 滝澤 幸嗣 (高山小)  
 金田 義雄 (小山小)  
 中村 恵子 (森上小)  
 鹿野 朋子 (日滝小)  
 新津 亜紀 (日野小)  
 山本 靖子 (高甫小)  
 山崎 由美 (旭ヶ丘小)  
 中澤 正子 (仁礼小)  
 平野真理子 (高山中)

## 第三分散会

司会 太田 秀雄 (日滝小)  
 発表 山本 浩 (仁礼小)  
 山崎 悦夫 (墨坂中)

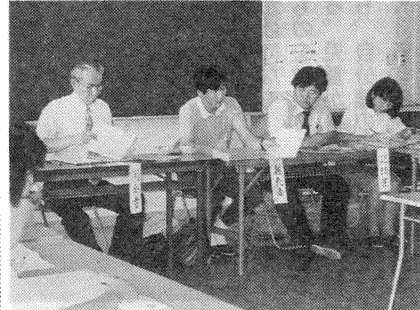
助言者

関野 格正理事 (栗ガ丘小)  
 出席者  
 山本 敬二 (栗ガ丘小)  
 河合 美和 (栗ガ丘小)  
 武居 和紀 (高山小)  
 服部 英明 (須坂小)  
 野池ゆき美 (森上小)  
 佐藤 玲子 (豊洲小)  
 浅井 徹 (井上小)  
 高野 順子 (旭ヶ丘小)  
 吉沢 正 (小布施中)  
 臼井 素子 (常盤中)  
 手塚 直樹 (常盤中)  
 上沼 隆光 (相森中)  
 小山 洋子 (相森中)

出席者からの発言

宿題の自主学習について

溝上 正弘 (常盤中)  
 細江 洋司 (常盤中)  
 西沢 享良 (相森中)  
 宮崎 桂子 (相森中)  
 堀内 利江 (墨坂中)



○自主学習は意欲的にやるが自分の好きなことばかりやる子が多い、学習のかたよりが出てしまいがちである。  
 ○中学では、受験勉強に備えて自分で何をしなければならぬかを見つける訓練になるようにしたい。  
 ○宿題の量をページ数ではなく時間で決めると、その子にあった量でできる。  
 ○やり方や量などを、ある程度先生の方で指定していくことは必要だ。  
 ○その日に学習したことの復習をさせるために、こんなことをしたらどうかというものを先生の方であげている。  
 ○ずっと続けていると、習慣となつている子はやってくるが、さぼる子が出てくる。  
 ○自主学習で学ぶ力を育てな

出席者からの発言  
 | 学力問題について |  
 ○習熟度別学習は生徒の学力向上のために必要だと思われるが、英語なら音声面、読解等分野に応じて取り入れるとよいのではないか。  
 ○テストでの評価と日々の学習を関連づけていくことが、必要ではないか。  
 ○学力とは、学んで得た力、生きて働く力、学ぼうとする力などで積み重なったものである。同時に、生徒の学習の受容能力をみとめることも大切である。  
 ○指導は小学校から行うことも必要ではないか。  
 (井上小 原 恵子)

○ドリル帳等の学習がやりっぱなしで終わらないよう、毎日算数や国語のドリルテストを実施している。  
 助言者の先生から  
 ○教育は人なり。ズクのある先生になつてほしい。先生が変われば子どもも変わる。  
 ○学力は指導要領の目標の達成度、定着度でみる。先生の教え方と深くかわつていない。  
 ○「育ちにくい」は「育てていない」ということ。先生の問題として受けとめるべきである。  
 ○授業に臨む時、必ず主眼をすえておくことが大切だ。  
 (井上小 原 恵子)

## 編集後記

第十五回教育懇談会特集号をお届けします。  
 ある先生が自分の生徒の学力についての思いを、あたかも自分のことのように語られ、それを聴く先生の先生方もじっと考えていられる姿が印象的でした。当日、基調提案をされ、忙しい日程の中で原稿をお寄せ下さった先生方、記録の先生方、ありがとうございました。(市川・小林)

